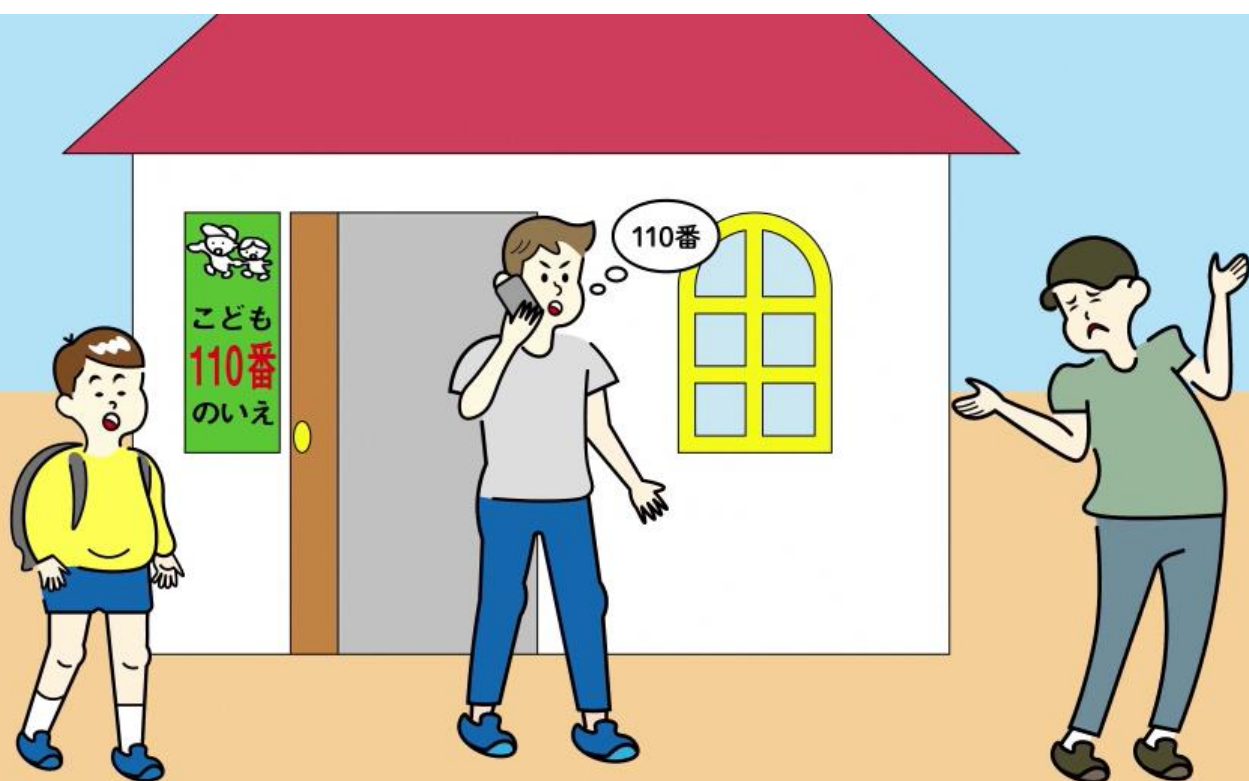


こども110番のいえ 活動マニュアル

令和7年改訂



京都府警察本部

「こども１１０番のいえ」とは

不審者に声を掛けられるなどして身に危険を感じた子供たちが助けを求めて駆け込んできたときに、子供たちを一時的に保護し、警察に通報するボランティア活動です。

子供たちが安心して避難できるよう、登下校時間帯など子供たちの外出時間帯に普段から在宅しておられる一般民家、商店、事業所等の方々にご協力をいただいています。

効果的事例

事例①

小学生が公園で遊んでいたところ、見知らぬ男から「飴を食べるか？」と声をかけられました。

小学生は断りましたが、その後、男にスマートフォンで撮影されたことから、付近の「こども１１０番のいえ」（民家）に逃げ込みました。

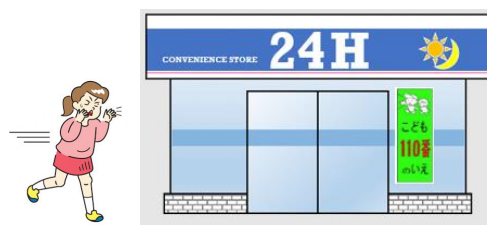
「こども１１０番のいえ」の方は、すぐに警察署に通報するとともに保護者に連絡するなどの保護活動を行いました。



事例②

中学生が歩行中、見知らぬ自転車の男から追いかけられたため、近くにあった「こども１１０番のいえ」であるコンビニエンスストアに逃げ込みました。

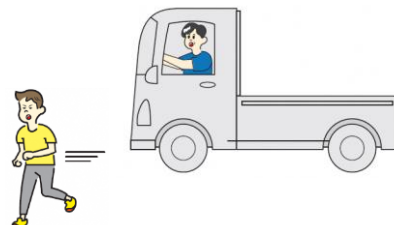
事情を聴いた店員の方は、１１０番通報するとともに警察官が到着するまでの間、中学生を保護しました。



事例③

中学生らが路上で話していたところ、付近にトラックが駐車し、運転していた男が車から降りようとしたことから、中学生らが逃げると、トラックが後を追ってきたため、付近の「こども１１０番のいえ」（民家）に逃げ込みました。

「こども１１０番のいえ」の方は、中学生らの安全確保をするとともに警察等への通報を促すなどの保護活動を行いました。



活動するにあたっての心構え

①子供たちとのコミュニケーションを大切に

子供は、知らない人の家には駆け込みにくいので、登下校の時間帯に子供たちを見かけたら、「おはよう」、「こんにちは」、「おかえり」など声をかけ、日頃から顔見知りになりましょう。



②プレートは目立つ位置に

「こども110番のいえ」は子供に知ってもらうことが大切です。プレートは、玄関・店舗入口など目立つ位置に取り付けましょう。



③玄関・店舗入口まわりの整理整頓を

子供たちは恐怖感から逃れたい一心で駆け込んできますので、子供たちが駆け込みやすい環境づくりに努めましょう。

④いつでも、だれでも対応できるように

子供が避難してきたときは、いつでも対応できるように、家族の方や従業員の方々などにも、活動要領を共有しておきましょう。

⑤無理な活動はしない

不審者に対して、立ち向かったり、追いかけたりするなどの無理な活動は絶対にしないようにしましょう。

⑥防犯情報などの活用を

地元の警察署等から発信する防犯情報などを活用し、地域でどのような犯罪が発生しているか知っておきましょう。



How to 防犯情報を入手するには・・・

府警ホームページ
京都府警察からの
総合情報発信窓口



防災防犯情報メール
Eメールで発生状況を
通知



京すぐメール
犯罪発生情報や
防犯情報などの
広報資料を通知



Yahoo! 防災情報
犯罪情報は、
Yahoo! JAPAN
アプリで受信可能



子供たちが駆け込んできたら・・・

①室内等の安全な場所に誘導する

外部との遮断は、犯人等の追跡を遮断させるには有効な手段です。

不審者(犯人)に追いかけている可能性もあるので、子供たちを外から見えない場所に誘導し、入り口を閉めてください。



②自分が落ち着き、子供も落ち着かせる

皆さんが慌てたり、興奮していたりすると、子供たちはますます興奮してしまいます。慌てず落ち着いて対応するよう心がけてください。子供たちには「もう大丈夫だよ」などの優しい言葉をかけて、この場所が安全であることを伝えてください。



③けがの有無を確認する

もし、けがをしているようなら応急手当をし、必要な場合は救急車を要請してください。



④速やかに110番通報をする

「こども110番のいえ」であることを伝え、子供が家に駆け込んできた時の状況を落ち着いて説明してください。

※110番通報で伝えていただきたい内容は、
裏表紙の「110番通報メモ」のとおりです。



※「何があったの？」とだけ聞いて、子供が言ったことを「110番通報メモ」に書いてください。

詳しい事情は、通報を受けて駆けつけた警察官が子供に聞きます。

皆さんは詳しい事情は聞かず、110番通報をして子供の安全確保をお願いします。

大人からの繰り返しの質問は、子供にとって精神的に大きな負担となります。

また、子供は大人と比べて、誘導・暗示を受けやすく、迎合しやすいと言われており、繰り返しの質問によって子供の元々の記憶が変わってしまうおそれがあります。



⑤警察官・保護者等に引き渡す

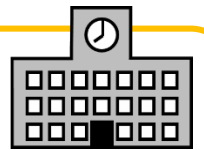
安全確保のため、子供たちだけで帰宅させず、警察官等に引き渡すまでの間、保護してください。



⑥プライバシーの保護に配慮を

保護した子供たちや保護の状況などを口外せず、プライバシーの保護に注意してください。

設置場所の情報共有について



「こども110番のいえ」の設置場所については、学校、行政機関等と情報共有（現住所及び氏名）しておりますので、ご了承のほど、お願いします。

事件でない場合でも思いやりを

子供たちが、

- お腹が痛い（トイレを貸して）
- 雨がやむまで待たせて（雷が怖い）
- 暑いので休憩させて（水を飲ませて）

と駆け込んでくるなど、

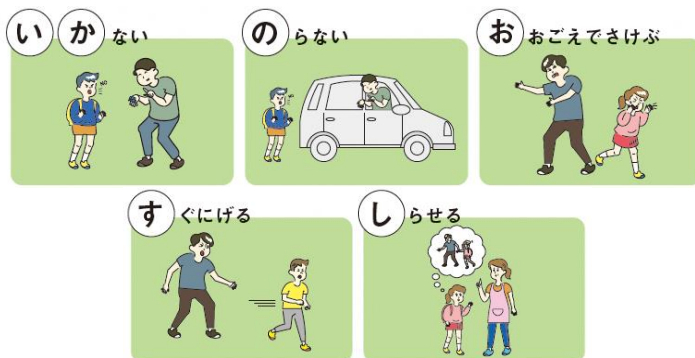
事件でない場合でも思いやりを持って接してください。



子供たちへの防犯教育について

京都府警察においては、有識者等のアドバイスを受けて作成した「防犯教育プログラム」に基づき、各小学校等で子供の発達段階に応じた防犯教室を実施しています。

日常生活の中に潜む様々な危険に対して「**気づき、考え、判断し、行動する**」を实践させて、子供自身の危険回避能力習得を目指すとともに、将来的に、地域社会の一員として地域の人々と協力する人材の育成を図ることを目的としています。



防犯教室では、不審者の対応方法のみでなく、

- ・見守ってくれている大人にしっかり挨拶しよう
- ・気になることは、信頼できる大人に相談しよう
- ・低学年や友達など困っている人を助けよう

など、地域の方との関わり合いの重要性についても教えています。また、フィールドワークの一環として「こども110番のいえ」に対する「訪問活動」、「スタンプラリー」、「駆け込み訓練」なども実施しています。警察、学校等から要請があれば、ご協力のほど、よろしくお願いします。



「こども110番のいえ」の卒業・・・

当初と事情が変わって、不在が多くなったり、転居、店舗の移転、廃業等により「こども110番のいえ」活動を卒業（廃止）される場合は、必ず地元の警察署にご連絡ください。

「ながら見守り活動」にご協力願います

「ながら見守り活動」とは、



通勤しながら



散歩しながら



買い物しながら



ジョギングしながら



掃除しながら

など、日常生活の中で子供の見守り活動をすることです。誰でも気軽に地域の安全安心につながる活動ができます。ご協力をお願いします。

なお、京都府警察においては、みんなで子どもの安全を見守ろうという願いを込めて、**自動車用啓発ステッカー**（A3サイズ、マグネットシート）を作りました。自動車につけて協力してくださる事業者様は、下記QRコードからアクセスして、フォームに必要事項を入力して、申し込みをお願いします。



【QRコード】



110番通報メモ

1 子供が駆け込んできたのはいつか

- (例) ・ ○時○分ころ
・ 今から3分前くらい
- []

2 駆け込んできた子供は

名前 () 歳
学校名

- ※ わからない時は、外見の情報を教えてください。
(例) ・ 見た目が小学校低学年くらいの女の子
・ ランドセルを背負った男の子
- []

3 駆け込んできた時の子供の様子、子供が話したこと

- ※子供が話していた言葉をそのまま伝えてください。
※詳しい事情は、後から警察官が聞きます。
(例) ・ 「助けてー」と言って駆け込んできた。
・ 「知らない人に体を触られた」と言って駆け込んできた。
・ 泣きながら家に駆け込んできた。
・ 「こっちおいでって言われた」、「腕を引っ張られた」と言っている。
- []